

ボールマスターの集い

団体名●丸井ゼミナール 3年／代表者名●丸井一誠（人間科学部こども学科）

はじめに

近年、インターネットやゲーム機器の普及により、子どもたちの遊びは、外遊びや運動遊びよりもオンラインゲームなど、室内で身体を動かさなくてもできる遊びが多くなってきている傾向が見られる。それに伴い、運動能力の低下や仲間と一緒に運動する機会が減っていると考えられる。そこで我々は、発育・発達が著しい時期である子どもたちに、多種多様な「ボール遊び」を通じて、学びや成長を促すと同時に、体を動かすことやスポーツをすることの楽しさや魅力を味わってもらうため、定期的に遊びの場を設ける活動を行なった。

活動内容

本学のハンドボール部の協力を借りながら、毎週月曜17時～18時の間で、週1回、合計12回の活動を行なった。今回は「10個のボールスキル」を獲得するというテーマを軸とし、基本的な動作の操作系の運動を参考にしながら活動を行なった。準備運動では、鬼ごっこを行い、その後、本日のテーマに関する内容を「簡単なものから難しいもの」、「単純なものから複雑なもの」と系統的に運動指導を行い、最終的にスキルテストをしていった。またボールスキルの獲得を可視化し、ボールスキルを獲得するたびにシールをスキルチェックシートに貼り、成長を感じることができるように工夫していった。

成果

本企画には、金沢星稜大学周辺の年長～小学生3年生の約40名程度が毎回、参加してくれた。また保護者から「あんなに楽しそうに体を動かす子どもは久々に見た」「普段あまり遊べる場所がないから、こういう機会を作ってください、感謝している」とおっしゃってもらい、学生の資質向上はもとより、子どもへの運動意欲の喚起、保護者の期待に沿えたことは喜ばしいことであり、今後も継続していきたいと考える。

今後の課題・展望

今回のイベントでは、「ボールスキル」をテーマに行ってきたが、実際、子どもたちが本活動後においてボール運動に親しんでもらえたのか、自ら進んで運動をしてもらえているかが不明なため、今後、検証の必要性はあるように感じる。

